

民俗－４ コビキノコ

山から運び出された木材は、板もくめや角材などに加工されます。この製材の作業を「木挽こびき」といいます。木挽きの時に木目に沿って縦に切るノコギリを、宮崎県ではコビキノコといいます。刃の形状は猫背、柄は斜めにとりつけられ、ノコ幅が広いので長尺の木材を直線に挽きやすくなっています。木材を台上に立てて置き、両手で拝むような姿勢で縦に挽きます。ノコの歯には、ササ歯と呼ばれる鋭い山型の歯（写真上）と、改良歯と呼ばれる湾曲した切れ込みのあるもの（写真下）との２種類があります。

コビキノコが使われる前は、大鋸おがと呼ばれる二人挽きノコが使用されました。木を切る時に出るクズを「おがくず」と呼ぶのはこのオガからきています。機械化の進んだ今日では、コビキノコを用いて製材する様子はほとんど見られなくなりました。

